



## IP ベース EPG 構成の確認

作成できるエンドポイントグループ (EPG) には、アプリケーション EPG と IP ベースの EPG の 2 種類があります。IP ベースの EPG は、マイクロセグメント EPG であるという点で通常のアプリケーション EPG とは異なります。この章では、GUI またはスイッチ コマンドを使用して、IP ベースの EPG 構成が IP ベースとして正しく分類されていることを確認する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [GUI を使用した IP ベースの EPG 構成の確認 \(1 ページ\)](#)
- [スイッチ コマンドを使用した IP-EPG 構成の確認 \(2 ページ\)](#)

## GUI を使用した IP ベースの EPG 構成の確認

この手順では、GUI および Visore ツールを使用して IP ベースの EPG が正しく構成されていることを確認する方法について説明します。

### 手順

- ステップ 1** 作成した IP ベースの EPG が GUI の **uSeg EPGs** フォルダーの下に表示されていることを確認します (次のスクリーンキャプチャを参照)。  
REST API を使用して作成された「IP」という名前の uSeg EPG の下にリストされている 1 つの IP ベースの EPG があることに注意してください。
- ステップ 2** 各 EPG IP (IP ベースの EPG) の EPG - IP プロパティ画面 (右側のウィンドウ ペイン) で情報が正しいことを確認します。  
画面の下部に表示される IP ベースの EPG と IP アドレスのリストに注意してください。
- ステップ 3** Web ブラウザから、APIC の IP アドレスに続けて「/visore.html」を入力します。Visore は、EPG など、システム内のすべてのオブジェクトを表示できるツールです。Visore を使用して、IP ベースの EPG が正しく構成されていることを確認できます。Visore の詳細については、『アプリケーション ポリシー インフラストラクチャ コントローラ Visore ツールの紹介』を参照してください。
- ステップ 4** ユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン (Login)] をクリックします。

**ステップ 5** クラスまたは DN の隣のフィールド（たとえば、「fvAEPg」）にクラスの名前を入力して、GUI で確認した IP ベースの EPG のクエリを実行します。

(注) これは、APIC の観点からのビューです。上記の「示されるオブジェクトの総数 (Total objects shown)」が「3」であることがわかります。これは、スイッチにダウンロードされた 3 つの EPG があることを意味します。以前 GUI に「IP」としてリストされていた IP ベースの EPG が、「dn」の隣に表示されていることがわかります。また、「isAttrBasedEPg」の横に「yes」と表示されていることにも注意してください。これは、これが IP ベースの EPG として適切に構成されたことを意味します。アプリケーション EPG と IP ベースの EPG の両方を含む、すべてのオブジェクトが Visore を使用して正常に設定されていることを確認できます。

**ステップ 6** スイッチ側から見た図です。スイッチで、fvEpP クラスのクエリを実行して EPG を表示し、「ctrnEnabled」属性を確認できます。IP ベースの EPG の場合は「yes」に設定されます。この EPG の下で、EPG の子が IP アドレスとともに表示されていることを確認して、適切な構成を確保します。構成された IP アドレスごとに、スイッチがトラフィックの分類に使用する 1 つのオブジェクト（「I3IpCktEp」という名前）があります。構成が完了すると、パケットが到着すると、スイッチはこれらのオブジェクトを使用して分類します。

**ステップ 7** 構成したすべてのエンドポイントと IP アドレスの pcTag が一致することを確認します。すべての EPG には pcTag があります。構成した IP アドレスと一致するすべてのエンドポイントは、この pcTag に分類されます。すべてのエンドポイントには、クラス クエリを実行できる IP アドレスがあります。トラブルシューティングを行うときは、これらのエンドポイント（サーバー）がこの IP ベースの EPG に正しく分類されているかどうかを確認する必要があります。（pcTags は IP ベースの EPG に一致する必要があります。）

## スイッチ コマンドを使用した IP-EPG 構成の確認

この手順では、スイッチ コマンドを使用して IP-EPG (「IpCkt」) 構成定を確認する方法について説明します。

### 手順

- ステップ 1** リーフにログインします。
- ステップ 2** /mit/sys ディレクトリに移動します。
- ステップ 3** /mit/sys ディレクトリで、ctx (vrf コンテキスト ディレクトリ) を見つけます。
- ステップ 4** VRF cts ディレクトリで、IpCkt が構成されている特定の BD ディレクトリに移動します。IpCkt が表示されます。

(注) 「IpCkt」と「IP-EPG」は、このドキュメントでは同じ意味で使用されます。

- ステップ 5** ディレクトリに移動すると、「猫の概要」に IpCkt に関する情報が表示されます。

- ステップ 6** サマリーの「operSt」に「サポートされていない」と表示されていないことを確認してください。
- ステップ 7** IpCkt が構成されている BD に対応する VLAN ID を見つけます。
- (注) VLAN ID は、**show vlan internal bd-info** コマンドのいずれか、または **show system internal epm vlan all** コマンドで見つけることができます。
- ステップ 8** BD の VLAN ID を見つけたら、**show system internal epm <vlan-id> detail** を発行します。ここで、特定の sclass で構成されたすべての IpCkts を表示できるはずですが、(/mit/sys ディレクトリに表示されるものと一致する必要があります。)
- ステップ 9** vsh で実行した手順を vsh\_lc に対して繰り返します。
- ステップ 10** BD の IpCkt に一致する IP を使用して、**show system internal epm endp ip <a.b.c.d>** を介してトラフィックを送信します。学習した IP に「sclass」の IP フラグと特定の sclass 値があることを確認できます。
- ステップ 11** vsh で実行した手順を vsh\_lc に対して繰り返します。

---

この手順で使用するスイッチ トラブルシューティング コマンドのリスト:

```
Cd /mits/sys/ctx-vxlan.../bd-vxlan...
- cat summary
Vsh -c "show system internal epm vlan all" or
Vsh -c "show vlan internal bd-info"
Vsh -c "show system internal epm vlan <vlan-id> detail"
Vsh -c "show system internal epm endp ip <a.b.c.d>"
Vsh_lc -c "show system internal epm vlan all" or
Vsh_lc -c "show vlan internal bd-info"
Vsh_lc -c "show system internal epm vlan <vlan-id> detail"
vsh_lc -c "show system internal epm endp ip <a.b.c.d>"
vsh_lc -c "show system internal epm epg"
```



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。